

第22回政府現地対策本部会議・第25回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年5月1日(日) 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

後ほど気象台から説明。別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者・行方不明者は前回と変更なし。

重傷者・軽傷者は分類未確定の方も含め1,566名

住家被害状況については、調査継続中であるが全壊・半壊・一部破損含め合計で43,558棟

避難状況については、27市町村で412避難所に22,078人避難されており前日比約3,800人減

避難指示等の発令状況 避難指示6市町 避難勧告9市町村で発令中

3 県等の対応状況

(総務部)

県職員の派遣状況については、資料のとおり

(企画振興部)

交通機関の運行状況について、下線部分が前回からの変更箇所

阿蘇くまもと空港は、本日は58便が航行予定

高速バスの熊本～福岡間の便数は元に戻っているが、熊本ICを使っている便が、益城熊本空港ICを使っているため、松の本など3つのバス停が利用できない状況

(健康福祉部)

社会福祉施設への応援職員の派遣状況、要望167名に対し他県から23名の応援をいただいている状況

先日、障害者の在宅状況把握について報告もうしあげたが、上益城・阿蘇地域を重点的に高齢者の状況把握の活動をスタートさせた

認知症対策について、認知症ほっとコールとして5月は休まずに相談を受け付ける

仮設住宅の対応について、5/2に市町村担当職員の応急仮設住宅会議を実施予定、5/3に県・熊本市の雇用促進住宅の入居申し込み開始予定

ボランティア活動状況について、県介護福祉士会及び日本介護福祉士会の要請で介護福祉士を熊本市・益城町・南阿蘇村へ派遣している。また、介護福祉士養成学校の生徒も、介護福祉士会と連携して避難所の高齢者支援活動を行っている

避難所の過密緩和支援について、益城町において、旅館・ホテルや豊野少年自然の家等への避難誘導を行い、昨日時点で142名の申し込みがあった

(環境生活部)

水道施設の被害状況、阿蘇市では本日通水試験を行い数カ所の漏水個所が判明し、そ

の補修を行っている。再度通水試験を実施していく。西原村は断水戸数を260カ所追加しているが、地域復興に併せて水道の復旧を行うことから、復旧まで少し時間が掛かる。福岡市の工業者が入っている。熊本市では、市内全域で試験通水を終え、断水解除しているが漏水箇所があることから、東京都他の協力を得ながら補修を実施していく。

廃棄物処理状況について、新たに熊本市の東部環境工場のボイラー故障のため、人吉球磨地域での処理応援が整っている。災害廃棄物の状況について、熊本市の災害廃棄物の収集実績は3,074t。

(商工観光労働部)

別紙のとおり。

(農林水産部)

農林水産関係被害額、第1報は4/26に約236億で報告しているが、今回の第2報について、一部市町村では調査不能もあるが、ほぼ全容が掴めたと認識している。現時点での被害額は約1,022億円(推計)。農林水産関係の災害被害額としては過去最大となった。畜産関係の被害9.7億円余、農業施設の土砂被害128億円弱、水田被害69億円弱、ため池など農業用施設被害369億円、山地崩壊に伴う林務被害256箇所、204億円、水産関係では漁港施設被害が19億円。

(土木部)

被災家屋応急判定について、4/15から益城町と熊本市で開始したが、18市町村、延べ5,556人、計46,960件の判定を4/30をもって予定通り完了した。住民要望があり市町村が必要とみとめる場合は、引き続き対応する。

俵山ルート of 被害状況について、俵山トンネルや6橋被災状況10kmが全止めを報告。

(教育庁)

公立学校の休校状況について、5/2からの再開学校名を記載。

熊本市教育委員会の情報を入れ県内各公立学校全体の休校状況を説明。

学校の再開にあたっては避難者の方々に十分配慮するよう市町村の教育委員会に依頼。

(県警本部)

立野地区に捜索部隊を投入したが、未だ見つかっていない。

4 国等の対応状況

(消防庁)

立野地区における安全管理支援を実施。

(自衛隊)

これまでの活動を継続。

(海上保安庁)

熊本港において、巡視船で生活支援を実施。

(気象台)

地震について、引き続き活発な活動が継続、最大震度6弱程度の揺れに注意。

天気について、明日は晴れ、日中の気温は本日より上がるため、25℃以上の夏日が予想されるので、熱中症に注意。明後日は雨を予想、1日の総雨量が50ミリ~100ミリのまとまった雨。

5 現地対策本部長の発言

(酒井政務官)

今日は、西原の仮設住宅の現場を見ることができた。

今、土を入れて、バラスを入れて整地をした状況で、測量をしていらっしやった。

そして、大切畑のダムと集落を見た。ダムは、断層が走っているところで、ダムを使うことは無理だと思った。大切畑集落において、女性の方に話を伺った。集会所の中にユニットバス、洗濯機が入っていたので、「どうしたんですか」と聞くと、大切畑の大工さんがいて、自分のところから持ってきて設置したということだった。その女性の人は、実は私はお嫁に来た身だが、「この人達がこんなにすごいとは思わなかった。」とおっしゃった。大切畑のダムに上がっていく道も全部崩壊した中で、その人達がユンボやトラックを借りてきて自分たちで道路を広げた。だからこそ国交省や県の人たちが調査に行くことができた。本当に感心した。

もう一つ、桑鶴大橋を見てきた。1 mの段差と1 m横にずれている状況。地元の人達が何かやっていたので、「どうしたんですか」と聞いたら、水道をチェックして直しているということだった。

皆さんが自分達で努力して何とかしようとしている姿を見て、涙が出る気持ちで話をうかがった。

こんな状況を見る中で、皆さんのために頑張っていきたい。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

未曾有の災害が発生した4月が終わり、今日から5月に入った。

しかしながら、引き続き活発な余震活動が続いている。警戒を怠らないようお願いしたい。

昨日で、特に緊急性の高い地区の、建物の応急危険度判定が終了した。

また、仮設住宅等への入居手続に必要となる、各市町村の「り災証明書」の発行についても、関係各位の手厚い人的支援により、手続が進んでいる。復旧・復興に向けて実に歩みを進めて参りたい。昨日、大西市長から電話があり、手厚い人的支援に助かっていると話があった。

ここで、私から皆さんに、立野での搜索活動について御報告がある。

これまで立野地区において搜索を続けてきた、行方不明の方の今後の搜索方針について発表する。

搜索については、ヘリやドローンによる上空からの搜索に加え、国土交通省の支援を得て、無人重機による土砂撤去を実施してきた。4月16日以降、15日間で搜索に延べ2562名を投入した。多い日は1000名を超える人員を投入し、昨日は警察犬による搜索も行うなど、懸命な搜索を行って参った。しかし残念ながら、今なお発見には至っていない。

立野地区の崩落現場は、斜面に堆積した土砂に亀裂が生じており、雨や余震で常に大規模崩落の危険性に直面している状況。また、重機による搜索が可能な範囲は全て実施した。現時点では大量の人員による搜索活動の拡大・継続は二次災害の危険性が極めて

高いと考えている。

御両親の心中を思うと断腸の思いではあるが、熊本県災害対策本部としては、現在の
ような捜索活動は、本日5月1日をもって、一旦終了することとした。

ただし、防災消防ヘリ及び県警ヘリによる上空からの定期的な捜索は継続される。ま
た、現場地域においては、河川に堆積する土砂の崩壊による下流域の二次災害の防止の
ため、河川監視カメラの設置に向けて準備している。設置時期は未定だが、このカメラ
が設置できれば、河川監視を行う中でも捜索を継続できるものと考えている。

なお、復旧工事の進捗に応じて、現地への進入が可能な状況になれば、捜索について
も考えて参りたい。

引き続き、情報提供などを通して、御両親に寄り添って参りたいと思っている。

最後に、これまで、いつ崩落するかもしれないという危険の中で、不明者発見の使命
のもと、懸命に捜索に当たってこられた警察、消防及び捜索活動を御支援いただいた国
土交通省等の関係者の皆様に、心から御礼申し上げたい。ありがとうございます。

(以 上)